

「理数科課題研究」国際大会で発表

11月4～5日の2日間、東南アジア地域の国々の中高生が参加する科学研究の国際大会「サイエンスキャッスル ASEAN 大会」が行われ、本校理数科3年生の2名が参加し、発表を行いました。

研究は2年時に行った課題研究「月の反射スペクトルと岩石」をもとに、英語に翻訳してエントリーしました。各国からエントリーされた中から、15チームが選ばれ、出場することができました。

この大会は例年、シンガポールやマレーシアで行われており、昨年度も本校から3名が出場しました。今年は新型コロナウイルスの影響で、オンラインによる開催となりました。



当日は、機器のトラブルに見舞われましたが、堂々と発表をすることができました。

参加した生徒二人の談話

「サイエンスキャッスルへの出場は、課題研究を始めた時からの目標でした。なかなか思うように研究が進まず、焦りを感じることもありましたが、二人で協力し合って頑張ってきました。一番印象に残っているのは、月の反射スペクトルを測定した日のことです。納得のいくデータを得ることができず、夜9時まで掛かって測定し、終わったときは二人とも疲れ切っていましたが、満足感でいっぱいでした。その後、コロナで大会開催が危ぶまれましたが、一次選考を通過し、出場が決まった時はものすごくうれしかったです。発表までは、プレゼンテーションや原稿の作成など準備に追われる怒涛の毎日でした。当日は、プレゼンテーションの共有がうまくいかず、100%納得のいく発表とは言えませんでした。準備してきたことを出し切ることができてよかったです。この経験を今後生かしていきたいと思います。」

「課題研究自体は、丸々一年やってきました。私は研究することは好きですが、文章にまとめることや英語で話すことは苦手で、共同研究者に助けをもらいながら、自分ができることをしっかりとやり切りました。苦手な英語に挑戦すると決めて取り組んでいたのも、たくさん読み、発音などもできるだけ正しくなるように確認しながら準備しました。オンライン本番には準備万端の状態を迎えることができましたが、機器の不具合で最高のパフォーマンスができず悔しい思いが残りました。しか



し、今まで頑張ってきたことには変わりはなく、苦手な英語に挑戦することができたので良かったと思っています。この課題研究で付けた力を大学で生かしていきたいです。」

最後に参加者たちとネット上で記念撮影しました。

